

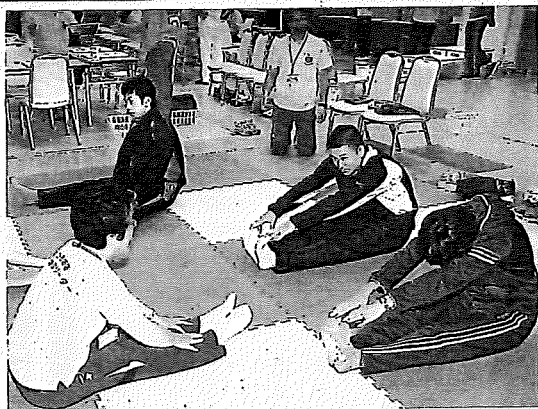
長寿目指し 健診600項目

岩木住民調査開始

弘前市岩木地区の住民を対象に、弘前大学などが取り組んでいる「岩木健康増進プロジェクト」の本年度の健康調査が30日、同市岩木文化センターあそべるなどで始まった。住民たちが平均寿命向上に向け、約600項目に及ぶ詳細な身体検査に臨んだ。

短命県返上を目指し弘大を中心に行われている同プロジェクトは、今年で11年目。健診で得られた住民の膨大な調査データを脳疾患予防や早期治療に役立てる

研究事業が、国の革新的イノベーション創出プログラム(COII STRREAM)に採択されており、健康増



体力測定の前に準備運動で体をほぐす住民ら

進活動拠点として定着しつつある。

今回は、認知症診断や記憶力検査などに加え、磁気共鳴画像装置(MRI)を搭載した移動車両による画像診断、骨密度測定、腹部体脂肪測定などを新たに取り入れた。国内大手の医療

機器、医薬品、食品メーカーも参加し、調査データ分析などに協力している。

30日は早朝から約130人が訪れ、体力測定や心電図検査、DNA検査のほかMRI診断、骨密度測定などを受けた。今年6月8日まで10日

間で約1200人が受診する予定。

健診を見守っていた弘大大学院医学研究科の中路重之科長は「COIIの採択で企業や人材が集まり、正し

い健康づくりの基盤が県内にできてきた。この活動を県民全体の共有認識とし、短命県返上への知識を高めていくことが今後の課題」と話した。(秋元宏宣)